

## 地理歴史科（日本史A）学習指導案

指導者 東山 真也

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和3年9月22日（水） 第2時限
- 3 学級 3年1組（7名）・3年2組（10名）
- 4 使用教科書 新日本史A 新訂版（実教出版）
- 5 単元名 近代化と私たち ― 国民国家の形成 ―
- 6 単元設定の理由

### <生徒観>

本学級は文系コースであり、生徒は世界史Bも履修している。今年度4月のアンケートでは、「歴史選択科目への関心度が高い」と答えた生徒が8割に迫り、歴史学習に対して意欲の高い者が多い。授業では、教師の発する問いに対して、事象の背景や流れを考察し、自身の思考を表現しようと熱心に取り組んでいる。

一方で「資料の読み取りが好きか」は約4割、「歴史的な視点から現代社会とのつながりを意識しているか」は約6割にとどまり、やや消極的な結果となった。本学級の生徒は「総合的な探究の時間」やSSHの課題研究で実験・観察・データの分析や作成といった経験を積んでいるが、歴史資料を扱う探究活動の経験は乏しい。歴史学習においても、情報収集や資料活用に取り組み、資料によって生じる解釈の差異等を体験的に学び、獲得した情報活用力や思考・判断・表現力を、現代の諸課題を考察する力につなげる深い学びが求められている。

また、「地理的な視点で歴史を見たり考えたりすることを意識しているか」のアンケート項目では、約8割が当てはまると答えており、本校の地理歴史科が取り組んできた、時間認識と空間認識をバランスよく身に付ける学びの結果と考えられる。本単元の学習においても、地理的な視点を含む多様な資料を読み解き、読解の面白さを実感させ、時間軸・空間軸の両方の視点から思考できる力を身に付けさせたい。

### <教材観>

新科目「歴史総合」の大項目B「近代化と私たち」中項目（3）「国民国家と明治維新」の小項目（ア）、及び中項目（4）「近代化と現代的な諸課題」に該当する部分を、「近代化と私たち―国民国家の形成―」という単元として構成した。

18世紀末から19世紀にかけて、欧米を中心に技術革新による産業の発展と市民階級の台頭を背景に、近代市民社会の原理が打ち出され、国民国家が成立した。近代化を進める国民国家では、国内において一層の工業化を進め「国民」の統合をより強固なものとするとともに、国外に向けて市場の拡大と領土の拡張に乗り出した。国際分業体制を築くこととなった欧米諸国の近代化は、日本やアジア、アフリカの国民国家の形成と人々の生活や社会のあり方にも大きな影響をもたらした。こうした「近代」の歴史とその先にある私たちの時代には歴史的連続性があり、現在の多様な課題に向き合う際、国民国家の歴史から「近代」を問う学びは有益なものとなる。

本単元は、国民国家の形成に関わる歴史事象について多様な資料から多面的・多角的に考察し、近代化について

概念的に把握することを目的として開発した。本単元を通して獲得した知識や概念を材料として、現在の私たちが抱えている課題に向き合い、自らが思考・判断することで、行動できる資質・能力の育成につながると考えられる。

#### <指導観>

近代社会や国民国家の成立に関わる文字史料や図像資料には豊富な蓄積があり、それらを教材化し読み解く学習は学びを深める指導の上で有効である。本単元においては、生徒の関心や読み取りやすさを考慮して資料を選択し、単元全体を見通した適切な量と内容の資料を読み取る学習となるように留意している。また、ワークシートや1人1台端末を活用して指導することで、情報を調べまとめる技能とともに、複数の資料から事象を相対化し、概念として理解する力の伸長を支援する。さらに、文字や図像に加えて、国・地域の位置関係や領地、勢力範囲等の地図教材も活用することで、空間的な視点からの思考も促したい。

学習形態としては、生徒が単元の基軸となる問いに対して主体的に向き合うことができるように、日常生活や身近な社会と結び付けて調べる活動や、多様な考えを比較したり相対化したりするグループ学習も取り入れている。それにより国民国家が成立した近代と私たちの時代とのつながりを生徒が強く意識することで、歴史学習で得た知識や概念を活用し、現代社会の課題を多面的・多角的な視点から考察できるようになることをねらいとした。

### 7 単元の目標

- ・国民国家の形成に至る複数の歴史的な事象を、時期や年代、推移、比較、事象間のつながりを視点として、多面的・多角的に捉えることで、「国民国家の概念」を構築する。
- ・近代における世界及び日本の国民国家の形成について、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- ・「国民国家の概念」とそれに基づく「国民国家形成の理由」について、生徒各自が「答え」を見出したうえで現代との関連性にも着目し、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・本単元を通じて獲得した「国民国家の概念」に照らし合わせて現代社会に目を向けて関連性を見出し、現在そして将来に直面すると予測される現代社会の諸課題に自らがどう向き合うかを問い、広範な視点で思考する力を養う。
- ・本単元における学習について、よりよい社会の実現を視野に入れて、現代との関わりに気付くとともに、「国民国家の概念」を構築し「国民国家形成の理由」を自ら考察する学習を通して学習内容の深まりを自身で振り返り、今後の学習へのつながりを見出す。

### 8 単元の位置づけ

本単元は現行課程「日本史A」(2)近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 の学習内容に位置づけられる。また新課程「歴史総合」大項目B「近代化と私たち」中項目(3)「国民国家と明治維新」の小項目(ア)、及び中項目(4)「近代化と現代的な諸課題」を踏まえたものである。なお、今年度も「世界史A」「日本史A」の共通する学習項目については地理歴史科の担当者が共同で授業づくりを行っており、本単元の内容は現行課程「世界史A」においては(2)世界の一体化と日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 及び エ アジア諸国の変貌と近代の日本 に位置づけられる。

**【単元の基軸となる問い (Main Question)】** なぜ近代は国民国家を必要としたのか

9 単元の評価規準

【新課程】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民国家の形成に至る複数の歴史的事象を、時期や年代、推移、比較、事象間のつながりを視点として、多面的・多角的に捉えることで、「国民国家の概念」を構築している。</li> <li>・近代における世界及び日本の国民国家の形成について、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国民国家の概念」とそれに基づく「国民国家形成の理由」について、生徒各自が「答え」を見出した上で現代との関連性にも着目し、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</li> <li>・本単元を通じて獲得した「国民国家の概念」に照らし合わせて現代社会に目を向けて関連性を見出し、現在そして将来に直面すると予測される現代社会の諸課題に自らがどう向き合うかを問い、広範な視点で思考している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元における学習について、よりよい社会の実現を視野に入れて、現代との関わりに気付くとともに、「国民国家の概念」を構築し「国民国家形成の理由」を自ら考察する学習を通して学習内容の深まりを自身で振り返り、今後の学習へのつながりを見出している。</li> </ul>

10 指導計画 単元名 近代化と私たち — 国民国家の形成 — 全8時間 ※新課程による評価規準

第1時 宗教改革は世界をどう変えたのか【●知， ●思， ●態】

第2時 国家はどのようにつくられたのか — アメリカ独立革命を例にして — 【●知， ●思】

第3時 市民革命はなぜ起こり、何をもたらしたか — フランス革命を例にして — 【●知， ●思】

第4時 欧米の国家統一事業はアジアにどのような影響を与えたか 【●知， ●思】

第5時 日本が目指す国民国家とはどういうものか【●知， ●思】

第6時 「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」を

これまでの学習内容（歴史事象）× 自分たちに身近なキーワードから考えよう

【○知， ●思， ●態】

第7時 近代における国民国家の形成から私たちは何を学ぶか（本時）【●知， ○思， ●○態】

— 単元のMQ「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」に対する答えを導こう —

第8時 国民国家の形成が現代に及ぼす課題を探ろう【●知， ●思， ●態】

— 自分たちが指摘した現代社会に見られる課題について資料を用いて考察しよう —

11 単元の指導計画 (●…「学習改善につなげる評価」, ○…「評定に用いる評価」)

【単元の基軸となる問い(MQ)】 なぜ近代は国民国家を必要としたのか

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1時	<p>&lt;単元全体の導入&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」という問いに、現時点の予想する答えを記入する。</li> <li>本単元の目標と学習内容を理解し、どのようにして問いを明らかにしていくか見通しをもつ。</li> </ul>			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現時点での予想を記入し、「近代化」と「国民国家」について見通しをもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul> <p>これから学ぶ各テーマでこの問いを考察し、単元の最後に自分で問いへの答えを出すこと、それが現代社会の抱える問題にどのように関係しているかを考察する学びの展望を持っている。</p> <p>※記入した予想は、第7時の「単元のまとめとしての答え」と比較する際に用いる。</p>
	<p>【本時の問い】 宗教改革は世界をどう変えたのか</p>				(評価資料)：ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宗教改革が進んだ当時の情勢について資料から読み取る。</li> <li>● 三十年戦争の勃発からウェストファリア条約の締結に至る過程、条約の内容に関する資料から宗教改革後の世界の変化について考察し、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宗教の在り方に異論を唱えるルターらを各地の諸侯が支援したことや印刷技術の普及が後押しとなって宗教改革が進んだことを諸資料から読み取っている。</li> <li>● 三十年戦争が新教 vs 旧教という宗教上の対立に留まらず、王権に基づく独立国家の承認、近代以降の国家間の外交関係、また国際機関の原型を生み出したことを、参戦国間の相互のつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>

<p>第 2 時</p>	<p>【本時の問い】 国家はどのようにつくられたのか — アメリカ独立革命を例にして —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料『独立宣言』を読み、この革命がイギリスからの独立であると同時に市民の自由・平等を宣言した近代市民社会への変革の意義をもつことを読み取る。</li> <li>● 『合衆国憲法』等の独立革命に関する諸資料と成立したアメリカ合衆国の社会を吟味し、疑問に思ったことや重要と思う事柄をワークシートに記述する。</li> </ul>				<p>(評価資料)：ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料『独立宣言』から、当時の市民が自然法・革命権・社会契約説などの権利の保障を目指して活動した様を読み取っている。</li> <li>● 憲法の制定や選挙権の獲得など独立革命がもたらした成果と、社会的弱者の排除や市民権の及ぶ範囲の限界などの課題について、現代との差異に着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
<p>第 3 時</p>	<p>【本時の問い】 市民革命はなぜ起こり、何をもたらしたか — フランス革命を例にして —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● フランス革命の一連の資料を活用し、グループ毎に分担を決めて協力しながら「フランス革命」の内容を読み取る。</li> <li>● 他国の干渉やナポレオン時代の対外政策の資料から、フランス革命が他国にも大きな影響を与えたことを読み取る。</li> <li>● ここまでの学習活動を手がかりに「市民革命はなぜ起こり、何をもたらしたか」を考察し、ワークシートにまとめる。</li> </ul>				<p>(評価資料)：ワークシート、グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 絶対王政下のフランスに見られた財政破綻や身分格差の問題、革命勃発期のブルジョア層の台頭や義勇軍の活躍、共和政国家の樹立と課題、他国に与えた影響、の4つの項目について、自身のグループに割り当てられた項目に関する資料を適宜選択し、読み取っている。</li> <li>● ナポレオンの他国への侵略、ナポレオン法典の伝播に関する資料から、国内外にもたらした経済・政治体制の変化、市民の権利と人権の限界など、当時のフランスが国際社会に及ぼした影響力の大きさについて読み取っている。</li> <li>● フランス革命に関わった国王、市民、革命の中心人物、ナポレオンの行動をもとにフランス革命の推移に着目して、革命の成果と課題を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
<p>第 4 時</p>	<p>【本時の問い】 欧米の国家統一事業はアジアにどのような影響を与えたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業革命の背景や生活の変化、恩恵、問題点、影響について、各担当箇所に関連する配布資料や各自で収集した資料から情報を読み取る。</li> </ul>				<p>(評価資料)：ワークシート (授業支援アプリを含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自の担当箇所に関連する配布資料に加えて、1人1台端末等を活用して積極的に資料を収集し、産業革命がもたらした利便性と環境破壊、健康被害の問題など、社会構造の変化やその功罪を読み取っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国との貿易や戦争を経験した中国、インド、西アジア諸国などのアジア各地で起こった変化について、資料から読み取る。</li> <li>・ここまでの学習活動を手がかりに、国際分業体制の成立を背景にした欧米諸国のアジア進出がアジア諸国の近代化に与えた影響をワークシートにまとめる。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国における漢人の自立への自覚、インドやエジプトでの反乱、西アジアのオスマン帝国にみられる西洋化政策など、アジア周辺の動きを資料から読み取り、アジア各地で起こった民族意識の高揚や近代化政策について理解している。</li> <li>●ヨーロッパ諸国とアジア諸国との貿易や戦争から成立した国際分業体制に見られる特徴を、相互の関係性に着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治新政府が日本の近代化実現のために取り組んできた複数の政策とその効果について関連する資料から読み取り、グループ毎に分担を決めて発表する。</li> <li>・本時の学習に基づき、本時の問いである「日本が目指す国民国家」に対して考察し、まとめる。</li> </ul>	●	●		<div data-bbox="236 629 1393 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【本時の問い】 日本が目指す国民国家とはどのようなものか</p> </div> <div data-bbox="879 701 1393 797" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(評価資料) : ワークシート (授業支援アプリを含む)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●明治新政府の政策として注目される殖産興業、教育、大日本帝国憲法、徴兵令について、各担当グループに分かれて新政府の意図と政策の成果を資料から読み取り、1人1台端末を活用して全体に説明している。</li> <li>●資料から読み取った内容を基に、工業化政策、政治制度、教育等の多様な点から急速な近代化と国民国家形成を目指した明治新政府の意図とその結果について、欧米諸国と比較しながら多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループが7つのカテゴリー(宗教、経済、政治、シンボル、領土、教育、人権)から2つ、第1～5時で学習した歴史事象から1つを選択して組み合わせ、「国民国家とは何か」(概念)、「なぜ国民国家がつけられたのか」(理由)を見出す研究テーマを各グループで設定する。</li> <li>・a「テーマ設定の理由(カテゴリーと歴史事象の選択理由を含</li> </ul>	○			<div data-bbox="252 1283 1398 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【本時の問い】 「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」を これまでの学習内容(歴史事象)×自分たちに身近なキーワードから考えよう</p> </div> <div data-bbox="820 1429 1407 1525" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(評価資料) : ワークシート、グループワーク (授業支援アプリを活用する)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「国民国家の概念」「国民国家形成の理由」を見出すための題材選びとテーマ設定の際、なぜそれを選んだか、どのような結論が予想されるか、現在を含む将来にどうつながっているのか、という見通しを立てながらカテゴリーと歴史事象を選択している。</li> </ul> <p>○aについては、「国民国家形成の理由」を解き明かすことを意識したテーマ設定になってい</p>

	<p>む) 」 b 「カテゴリー①に関する検証」 c 「カテゴリー②に関する検証」 d 「まとめ「国民国家の概念」「国民国家形成の理由」についての結論」の4項目を各自でワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自が調べた内容をグループで共有し、協力しながら授業支援アプリのグループワークシートにまとめる。</li> </ul>		●	<p>る、b・cについては、aに即した資料を選択して必要な情報を読み取っている、dについては、a・b・cを踏まえて、自分なりに考えた「国民国家の概念」「国民国家形成の理由」を説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの意見交換を通じて、同じテーマであっても自身と他者とは探した資料やその読み取り方に差異があることに着目し、皆の学習成果を取り入れてグループとしてのまとめを作成している。</li> </ul>
第7時	<p>【本時の問い】 近代における国民国家の形成から私たちは何を学ぶか (本時) — 単元のMQ「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」に対する答えを導こう —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近代における「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」について、各グループが選択したカテゴリーと歴史事象から成る検証結果を基に発表する。</li> <li>自らの研究活動と各グループの発表を踏まえて「国民国家の概念」をより広範な視点から思考し、再構築する。</li> <li>単元のMQ「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」の結論をワークシートに記入する。</li> <li>本単元の最初の授業でMQに対する答え(MA)の予想を記入したプリントを返却し、本時までの学習で自身の考えがどのように変化したかを振り返り、ワークシートに文章でまとめる。</li> <li>1人1台端末上で現代の諸課題のイメージマップを作成して整理し、本単元で学んだ内容と</li> </ul>	●	○	<p>(評価資料)：ワークシート、発表 (授業支援アプリを活用する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選択したカテゴリーと歴史事象が国民国家を形成する要素となることを収集した資料から指摘し、「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」を資料に基づく論理性のあるものとして説明している。</li> <li>自身の作成したワークシートやグループ内の意見交換、クラス全体での研究成果の共有といった一連の学習内容を踏まえて「国民国家の概念」を再構築している。</li> <li>一連の学習活動から最終的に到達した「国民国家の概念」に基づいて「国民国家形成の理由」を文章にまとめている。その際、他国に及ぼした影響や現代までの推移等、空間及び時間のつながりに触れながらMQに対するMAを記入している。</li> <li>初回の授業と本時の授業で自身が書いたMAの記述を比較して、本単元における資料読解や資料収集、文章化する学習活動等のいずれの方法が自身の学習において有効であったかを振り返っている。自身の学習内容の深まりについて自己評価をしている。</li> <li>「現代の諸課題」を書き出してイメージマップを作成し、それらを7つのカテゴリーに分ける作業を通じて、本時までの歴史学習と「現代の</li> </ul>

	の類似点をワークシートに記入する。			諸課題」の関連性を見出し、第8時の現代社会の諸課題の考察に意欲的に取り組もうとしている。
第8時	<b>【本時の問い】 国民国家の形成が現代に及ぼす課題を探ろう</b> —第7時に自分たちが指摘した現代社会に見られる課題について資料を用いて考察しよう—			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学んだ「国民国家の概念」と関連付けながら、現代社会に見られる課題について新聞記事やニュースから読み取る。</li> <li>これまでの学習活動に基づき、現代社会に見られる諸課題に自らがどう向き合うかを問い、広範な視点で思考する。</li> <li>本単元で学習してきた内容や方法を振り返り、今後の歴史学習に活かすことのできる視点や方法を見出す。</li> </ul>	●	●	(評価資料)：ワークシート、グループワーク (授業支援アプリを活用する)
		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現代的な諸課題」と「歴史的な状況」とをつなぐ科目ならではの「見方・考え方」（「自由と制限」「富裕と貧困」「対立と協調」「統合と分化」「開発と保全」）のいずれかの視点に基づいて、記事を読み取っている。</li> <li>本単元を通じて獲得した「国民国家の概念」と照合させながら現代社会に目を向けて関連性を見出し、現代社会の諸課題を自らに関係のあることとして捉えて広範な視点で思考している。</li> <li>「現代の諸課題」についても7つのカテゴリーに分けて考えることができ、「今」に向き合うために「過去」と向き合うことが大切であると気付いている。またグループ等での議論を通じて適宜修正を加えながら考えを常に深化させようとする姿勢をもっている。</li> </ul>

## 12 本時の指導計画（第7時）

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価対象
導入 5分	<b>【単元の基軸となる問い(MQ)】「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」</b>			
	<b>【本時の問い】 近代における国民国家の形成から私たちは何を学ぶか</b> — 単元のMQ「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」に対する答えを導こう —			
	<b>【本時の重点目標】 複数の視点から「国民国家の概念」を理解し、自らの言葉で「国民国家形成の理由」を説明する(=Main Answer)</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の発表に至る経緯を復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時のイメージマップから選択したカテゴリーが【基軸となる問い(MQ)】の答えにつながる重要な項目であることを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に考察したりまとめたりした内容を整理し、1人1台端末を用いた発表の手順を習得している。</li> </ul>	



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援アプリを用いた発表のポイントを確認させる。</li> </ul>		
<p>展開1</p> <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代における「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」について、各グループが選択したカテゴリーと歴史事象から成る検証結果を基に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択したカテゴリーと歴史事象がどのように国民国家の形成に関連しているかを明確に示させる。</li> <li>・発表を聞く相手が理解しやすい伝え方や見せ方の工夫を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択したカテゴリーと歴史事象が国民国家を形成する要素となることを収集した資料から指摘し、「国民国家の概念」と「国民国家形成の理由」を資料に基づく論理性のあるものとして説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット画面</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>展開2</p> <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの研究活動と各グループの発表を踏まえて「国民国家の概念」をより広範な視点から思考し、再構築する。</li> <li>・単元のMQ「なぜ近代は国民国家を必要としたのか」の結論(MA)をワークシートに記入する。</li> <li>・教師による複合的な観点からのPoint解説を聞き、国民と国家の両方の立場に立ち、ワークシートに記入する。</li> <li>・結論Y・Zも参考にして、「国民」として暮らしている自身の日常も含めながら「国民国家の概念」を一層深め、ワークシートに追記する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「概念」は生徒にとって捉えにくいので、「国民国家を形成する大きな目的」を見出すように促す。</li> <li>・これまでの学習を踏まえて自分自身で結論を導くように促す。他者の異なる意見を比較し、類似点や相違点を考えるように声かけする。</li> <li>・国民側、国家側という異なる立場に立って先に出した結論を再度見返し、追加できる点がないかを確認させる。</li> <li>・「国民」として暮らす自身についても意識を向けながら「近代における国民国家の形成から私たちは何を学ぶのか」の問いを自分事として捉えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の作成したワークシートやグループ内の意見交換、クラス全体での研究成果の共有といった一連の学習内容を踏まえて「国民国家の概念」を再構築している。【知】</li> <li>・一連の学習活動から最終的に到達した「国民国家の概念」に基づいて「国民国家形成の理由」を文章にまとめている。その際、他国に及ぼした影響や現代までの推移等、空間及び時間のつながりに触れながらMQに対するMAを記入している。【思】</li> <li>・国民と国家の異なる立場に立ちながら考察している。</li> <li>・結論Y・Zの( )に入る語句を考察し、表現することで、「国民」として暮らす自身の日常も含めて「国民国家の概念」をより広範に捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

展開 3 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の最初の授業で自身がMQに対するMAの予想を記入した第1時のプリントを返却し、本時までの学習で自身の考えがどのように変化したかを振り返り、ワークシートに文章でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国民国家」に対するイメージや捉え方、考え方の変化について、自分自身に問いかけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初回の授業と本時の授業で自身が書いたMAの記述を比較して、本単元における資料読解や資料収集、文章化する学習活動等のいずれの方法が自身の学習において有効であったかを振り返っている。自身の学習内容の深まりについて自己評価をしている。 【態】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
まとめ 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末上で現代の諸課題のイメージマップを作成して整理し、本単元で学んだ内容との類似点をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだこととの関係性を考えながら、自由に関連語句を挙げさせ、次回の授業に関心を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現代の諸課題」を書き出してイメージマップを作成し、それらを7つのカテゴリーに分ける作業を通じて、本時までの歴史学習と「現代の諸課題」の関連性を見出し、第8時の現代社会の諸課題の考察に意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>	

13 本時における評価の目安 ○【思】○【態】 と 予想される生徒の解答例（評価A・B）

	A（十分に満足できると判断される）	B（おおむね満足できると判断される）	C（「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て）
思考・判断・表現	一連の学習活動から最終的に到達した「国民国家の概念」に基づいて「国民国家形成の理由」を文章にまとめている。その際、自身の担当箇所だけでなく複数の事例とカテゴリーにも言及し、他国に及ぼした影響や現代までの推移等、空間及び時間のつながりを広範な視点で触れながらMQに対するMAを記入している。	一連の学習活動から最終的に到達した「国民国家の概念」に基づいて「国民国家形成の理由」を文章にまとめている。その際、他国に及ぼした影響や現代までの推移等、空間及び時間のつながりに触れながらMQに対するMAを記入している。	Bを満たしていない場合の指導・手立てとして、指導者が該当生徒の現時点での理解度を把握した上で、「国民国家の概念」を本単元のこれまでの学習内容や配布資料等を活用して理解させる。それを踏まえて「誰が、なぜ、自分の国を国民国家にするためにどのように行動したのか、それが世界全体をどう変えていったのか」を自身のワークシート、グループシートを活用して思考させ、表現させる。

主体的に学習に取り組む態度	初回の授業と本時の授業で自身が書いたMAの記述を比較して、本単元における資料読解や資料収集、文章化する学習活動等のいずれの方法が自身の学習において有効であったかを振り返っている。自身の学習内容の深まりについて思考の変容を具体的な項目を挙げて説明し、自己評価をしている。	初回の授業と本時の授業で自身が書いたMAの記述を比較して、本単元における資料読解や資料収集、文章化する学習活動等のいずれの方法が自身の学習において有効であったかを振り返っている。自身の学習内容の深まりについて自己評価をしている。	Bを満たしていない場合の指導・手立てとして、初回の授業と本時の授業でMQに対するMAの記述内容に変化が見られない生徒に対しては、第6時のワークシートで自身が資料の再検証をした際に記述した内容を確認させ、初回の授業から思考の深まりが見られる箇所を授業者が指摘することで、深化したMAを記述させる。
---------------	--	--	---

(評価B) に該当する生徒の解答例

思考・判断・表現	<p>(例①) 国民が国王による絶対王政などに対して不満をもち、国民が一体となって反発を起こした。そこで民主主義の精神が生まれ、国民が中心となって政治を動かそうという意識が強まっていった。</p> <p>(例②) 国民国家をつくるためには古い体制を壊す国民の団結が必要で、自由と平等を追い求め、様々な場所で革命が起きて国家が出来た。</p> <p>(例③) 国民国家に必要なことは、国民一人一人の主権獲得と独立、または建国の意志が強く、それを引っ張っていく主導者が必要である。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>(例①)「学習の方法」についての振り返りの例 それぞれの改革について内容や流れを詳しく知ることができた。同じことを調べていても着目する点や調べ方で気づけることが増えた。</p> <p>(例②)「学習の内容」の変化を記述した例 周りの影響を受けたからという単純な理由ではなく、ヨーロッパから刺激を受けて各国で様々な政策が行われ、国によって発展の仕方に違いがあると感じた。</p>

(評価A) に該当する生徒の解答例

思考・判断・表現	<p>(例①) 宗教改革で宗教の力が弱まり宗教の縛りから解放された人々が民族や思想をもとに領土や主権をもつ国家になった。そしてフランス革命などを経て、国民国家は他の力から干渉されることなく、その国の国民が権利やアイデンティティを守るためのものとなった。その後国民国家は近代的なものとしてヨーロッパから世界各地へと広がった。 (複数の事例とカテゴリーにも言及しており、広範な視点から記述している)</p> <p>(例②) 身分の格差や、女性蔑視などの性別による政治格差を改善するためには国民国家が必要であった。平等な国をつくるためには国民が主権をもっている国民国家であることが必要だが、実際は完全に平等をつくることは難しく、理想の国民国家にはならなかった。 (他者との意見交換をもとに、新たな視点として国民国家形成の難しさを記述している)</p>
主体的に学習に取り組む態度	初回と比べて、国民国家に対する知識が深まった。ただただ国民が国民自身で国家を作り上げることだと思っていたが、国民の自由や平等な権利、差別の問題など、様々な要素が混ざり合って国民国家を必要としたということがわかった。(思考の変容を具体的に記述している)